

暑中お見舞い申し上げます。また、新型コロナウイルス感染で被害に遭われた方々に深くお見舞い申し上げます。

今年の総会にて2016年度以来再び会長職を拝命いたしました。今回は副会長も三名体制となり会の総意を挙げての活動と致しますので何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、2020年代に入り、これから10年の展望を検討していた矢先に、世界的な新型コロナウイルス騒動で産業界も大きな影響を受け、塗装機械業界としても根本的な見直しを図らざるを得ない状況になりました。一方、グローバルな動きとしては持続可能な地球の未来を目指すSDGsが国連主導で設定され、世界全体での取り組みになりつつ在ります。近年の地球温暖化の影響での、欧米での最高気温、日本での集中豪雨などの異常気象を見るに付け、世界のあらゆる分野での貢献の再検討、新たな目標の設定が求められます。

日本塗装機械工業会（CEMA）は21世紀3ビジョン（①塗装の価値創造・展開②地球環境の保全③共生と共栄）を原点として21世紀の20年間活動をしてきましたが、今後10年間はSDGsの17項目の内、7. エネルギーをみんなに 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナーシップで目標を達成しよう の5項目を重点目標として具体的な活動を展開していくこといたしました。

また、活動を円滑に進めるため、組織を内外に分かりやすい5委員会（①運営企画委員会②統計委員会③技術委員会④広報委員会⑤シンポジウム委員会）に統一し、会員50社がそれぞれの立場で、塗料・塗装業界の向上に取り組み、産業、社会の発展に寄与して参りますのでよろしくお願いいたします。

さて、CEMAは本年度で設立44年目を迎えましたが、この間、業界の各団体と技術交流を図り、2007年には日本工業塗装組合連合会とCEMAとで「工業塗装高度化協議会」を発足させ、現在は日本パウダーコーティング協同組合も加わり、IPCO（国際工業塗装高度化推進会議）へと発展しております。昨年度は、日本塗料商業組合青年部と「次世代塗装チームラボ」を発足させ、三部会（「建築・重防・船舶」「自補修」「工業」）での研究取り組みを開始いたしました。

今回の新型コロナウイルス騒動により世界の情報ネットワークの動きは、日本の塗料塗装業界にも大きな影響を与え、塗装機械業界も原材料の塗料と一体化となった技術開発が不可欠であり、そのために塗料や現場での塗装の様々な情報が必須となりますので、今後一層、関連塗料塗装団体との交流を深めて参ります。残念ながら過去20年間毎年実施して来ましたがCEMAシンポジウムは、本年延期せざるを得ませんが、新たな方法での情報発信に取り組む予定です。

さらに、塗装のハード面を担うCEMAとして、環境配慮とともに安全面での責任も重大であります。作業者の安全を期すための自動化には鋭意努力して参りましたが、今後はIoT、AIなどの最新技術を導入して、更に安全度を向上させて参ります。塗装ラインでの人災や火災は可燃物の塗料を扱う以上は潜在的に何万分の一かはありますが、従来、作業者に安全

を委ねて来ました。システムとしてそれらを予防する技術が必要であり、CEMA は快適な作業環境を作るためハード面での情報提供をいたしますので、どうか、ご一緒に参画いただき、塗装の環境、安全面でのイメージアップを図って参りましょう。